

九州の魅力発見！

# 九州の夜を彩る夜景都市

北九州市・長崎市・熊本市の夜間景観への取り組み



KITAKYUSHU



NAGASAKI



KUMAMOTO

# 北九州市

## 「日本新三大夜景都市」全国1位

2022年3月25日、札幌市で開催された「夜景サミット2022 in 札幌」で、全国約6,100名の夜景観光士の投票により、北九州市は「日本新三大夜景都市」に全国1位で再認定※されました。

※2018年の認定に続き、2度目の認定

北九州市は、「皿倉山」や「高塔山公園」、「足立公園」、「門司港レトロ展望室」、「小倉イルミネーション」、「戸畑祇園大山笠」、「和布刈公園第二展望台」、さらに、今年8月に新たに認定された「若戸大橋」といった日本夜景遺産が8つもあり、バラエティ豊かな夜景観光資源があります。

また、2018年に初めて日本新三大夜景都市に認定されて以降、「小倉城」や「門司港駅」、「若戸大橋」など歴史的な建造物のライトアップや北九州市民が力を合わせて創り上げたイベント「小倉城竹あかり」など、さまざまな取り組みを行い、夜景観光都市として全国に魅力を発信してきました。

こうした活動を市民や関係者の方々と力を合わせて実施し、夜景観光資源を磨き上げてきた結果、今回の全国1位の認定に繋がりました。

「ものづくりの街」として発展してきた北九州市を象徴する夜景として「工場夜景」も人気があり、船の上から工場夜景を楽しむことができる「夜景観賞定期クルーズ（要事前予約）」が運行されています。関門海峡から洞海湾にかけての海沿いに林立する工場の幻想的で煌びやかな光を、ナビゲーターの案内を聴きながら楽しむことが出来ます。（夜景鑑賞定期クルーズお問い合わせ…関門汽船株式会社 TEL093-331-0222）

今後も北九州市は、夜景観光都市としての発展を続けていくために、市民と関係者が一丸となって新たな夜景の魅力を創り上げていきます。

北九州の夜景  
情報が満載!

北九州市の  
夜景公式サイト



北九州を代表する夜景スポット、皿倉山からの夜景



2022年8月、新たに日本夜景遺産に認定された「若戸大橋」のライトアップ

# 長崎市

## 「世界新三大夜景都市」世界2位 「日本新三大夜景都市」全国3位

世界的にも夜景都市として有名な長崎市では、夜間景観の向上を目指して、様々な視点からの夜間景観づくりに取り組んでいます。

※世界新三大夜景には2012年に初認定され、2021年に2度目の継続認定

長崎市は、長崎県の最大の都市であり、中核市に指定されています。環長崎港夜間景観向上基本計画をもとに「遠景の夜景みがき」と「中・近景の夜間景観づくり」の2つの視点で夜間景観整備の取組みを進めてきました。

長崎市は、鶴の港と称される長崎港を中心に、山々が取り囲むすり鉢状の地形をしています。この長崎独自の地形が立体的な夜景を創り出しており、「稲佐山」・「鍋冠山」・「風頭公園」などに代表される多くの視点場から夜景を楽しむことができます。

遠景の夜景を楽しむ工夫として稲佐山および鍋冠山から見える夜景の新たな魅力づくりを企画してきました。各視点場（展望台）から眺める夜景にハートマークや星座の形が浮かび上がる整備も行い、新しい夜景の楽しみ方を提案しています。

夜景を多くの人に楽しんでもらうため、展望台およびその周辺の整備も行ってきました。稲佐山では、2011年に山頂展望台の改修を行い、長崎ロープウェイ稲佐岳駅舎から展望台のある山頂駐車場までの通路に7,000個のLEDを設置した「光のトンネル」で、来場者が山頂での夜景に出会うまでの空間をサポート。また、山頂にある電波塔のライトアップ整備などを行っています。

その他にも、夜景観光を推進する「夜も歩いて楽しいまち」のため、中・近景の夜間景観づくりを進めてきました。市内7カ所のエリアにおいて、地域のランドマークとなる歴史的建造物や観光施設等のライトアップや回遊路の街路灯などの整備を重点的に行っています。

今後も長崎市は、世界に誇る夜景都市としての魅力を磨き続けてまいります。

夜景スポットが  
たくさん見つかる!

長崎市の  
夜景情報はこちら



眼鏡橋の夜間景観



稲佐山からの夜景

## 熊本市光のマスタープラン

熊本市の恵まれた景観資源を活かした夜間景観づくりに官民連携で取り組み、魅力ある夜景都市を創造しています。

熊本市は、まちの中心部にそびえる勇壮な熊本城、清らかな地下水と豊かな緑、良質な農産物等、歴史文化と自然の恵みにあふれたまちであり、これらの特性を活かした良好な景観を守り育てるため、早くから熊本市独自の都市景観づくりを進めてきました。一方、夜間景観に関しては、これまで全市的な考え方や方針が整理されておらず、熊本市の特性や景観資源が夜間に活かされていないことが課題としてありました。

そのような中、2016年4月に熊本地震が発生。その甚大な被害を受け、改めて安全・安心のための光の大切さを認識しました。そこで、復興事業の歩みに合わせ、熊本市の特性や景観資源を活かし、官民連携による統一感のある新たな夜間景観づくりに向けて、新たな一歩を踏み出しました。

その第一歩として、2021年3月に、夜間景観の理念や方針を

定めた「熊本市光のマスタープラン」を策定。実際に見て感じてもらう機会を通して、市民一人ひとりが夜間景観に対する意識を高めることが重要と考えています。そこで、「熊本市光のマスタープラン」に基づき、市民協働で地域資源や行事等の照明演出の支援を行う「ライトスケープ・キャラバン（夜間景観実証実験）」を2021年より始動し、魅力ある夜間景観を地域と一緒にづくり、地域主体のまちづくり活動を推進していきます。2021年は、市内7カ所において本取り組みを実施しており、今年も継続して実施しています。

「熊本市光のマスタープラン」では、熊本市の夜間景観の将来像として、熊本の顔（目鼻立ち）が魅力的に伝わるまちを掲げています。この実現のために、市民・民間事業者・行政等が相互に連携し、計画的かつ持続的に光を紡いでいくことが必要不可欠と考えています。

今後も、ライトスケープ・キャラバン等を通して市民や民間事業者を巻き込み、地域主体の活動を支援しながら、市民一人ひとりの自主的な夜間景観の形成への参加を促してまいります。

ライトスケープ・キャラバン  
Webページ



都市デザイン課  
Instagram



ライトスケープ・キャラバンの事例  
上.白川夜市、下.子飼商店街